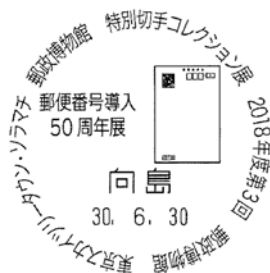

2018年度 第3回
郵博 特別切手コレクション展
郵便番号導入 50周年展

展示作品解説パンフレット



主催

郵政博物館、特定非営利活動法人郵趣振興協会

展示団体

特定非営利活動法人郵趣振興協会

後援

無料世界切手カタログ・スタンペディア株式会社

開催日時

2018年6月30日(土) 10:00-17:30

2018年7月 1日(日) 10:00-17:30

会場：郵政博物館

切手コレクションの観覧順序

展覧会に展示される切手コレクションは、「展示リーフ」という用紙に整理されて展示されています。この「展示リーフ」は16枚ごとにパネルに収められ、各パネルで以下の順で展示されています。

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12
13	14	15	16

従いまして、各パネルにおいては、展示リーフは、上段から、左から右へと、ご覧ください。

なお、切手コレクションの整理方法には様々なやり方がありますが、この展示方法は、分かりやすさ・コストなどの点で現在最も普及している方法で、日本だけでなく、欧米、アジア、オセアニア、アフリカの各国でも同様の方法が採用されています。

作品をご覧になられてのご質問や切手収集に関するご質問については、場内におります主催者・展示者にどうぞお声がけください。

楽しく集める和欧文機械印 (5)

藤田 俊則

1968年第一種郵便料金が15円(菊)の時に自動取り揃え押印機の稼働が始まり、その後20円(松)、50円(緑観音)、60円(梵鐘)、……現在82円(梅)に至る迄、この50年で色々な事が有りました。

どの切手が懐かしい切手なのかは世代によって違いは有りますが、みなさんに少しでも懐かしいと思って頂けるような局遊びをしてみました。

リーフとしては100番の「東京中央」からスタートするのが一般的ですが途中から、北は北海道、南は沖縄迄としました。

和欧文機械印一筋集めていますと低額面だけでなく高額面の切手迄、入手出来るようになり別な楽しみ方も出て来ました。「魔方陣」はその1つです。電卓をお持ちの方は立ち止まって計算してみてください。



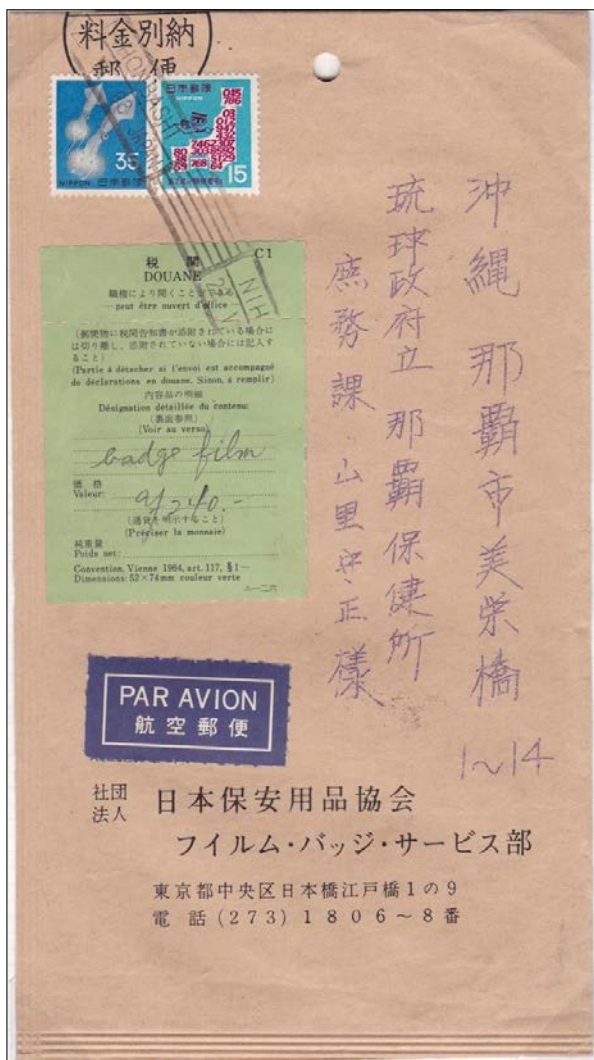
郵便番号宣伝切手 (4)

中澤 正夫

郵便事業の近代化を図る為に、昭和43年7月1日から郵便番号制が実施され、普及宣伝する目的で当日に郵便番号宣伝切手第1次分が発行された。当該シリーズ切手は第6次分まで普通切手として発行され各種変化が見られます。

例えば、製造面では目打形式や計数番号の変化、使用面では消印の変化（標語入りの和文機械印と和欧文機械印に3種類の標語や戦後型時刻表示、等）、使用例では国内便や外信便の特殊取扱便等。

特に当時は未返還だった沖縄宛の特別地帯宛外信便や新規に登場した和欧文機械印の試験期間内押印のエンタや誤植によるエラー押印のエンタ等がありますので、全般的に楽しめます。



配達局名記載から郵便番号記載へ (5)**片山 七三雄**

本展示は、郵便物配達業務改善の一つとしての「名宛配達地域（受持郵便局）」を郵便物上に明記するという観点から、1898年以後1968年迄の70年の歴史を以下の三期に分けて展示することを目的とする。

第一期 逓信省主導（第1フレーム～第2フレーム）

1898年 行政区分国名期 配達局名記載勸奨

1908年 行政区分都道府県期 配達局名記載勸奨

第二期 GHQ 主導（第3フレーム～第4フレーム）

1948年 郵便遅滞期 配達局名記載勸奨

第三期 郵政省主導（第5フレーム）

1953年 市町村合併期 配達局名記載勸奨

1968年 郵便自動化期 郵便番号記載勸奨

第一期・第二期は、年賀状を始めとする郵便物の増加に対する消印及びその省略に関する小史を含み、配達局名記載勸奨と配達局名記載例を取り上げる。

第三期は、自動化対応の切手や消印の側面からは他の展示をご覧いただくことにし、主に制度導入のキャンペーンの側面から、当時の資料を多数展示する。

和欧文機械印(4)

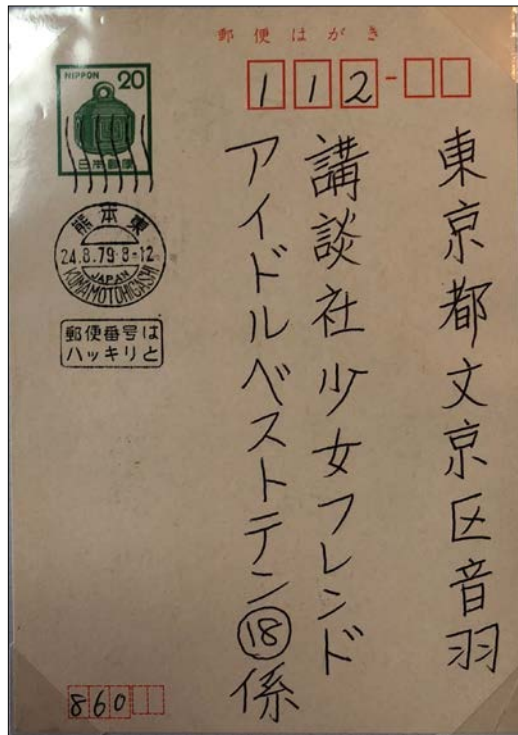
鈴木 盛雄

郵便物の増加により、郵便番号読み取り区分機能をもつ押印機を、大規模な郵便局を中心に配備し、1968年12月1日より使用を開始しました。

この機械で使用された和欧文機械印と呼ばれる消印は、現在までに大きく分けて3種類に分けられます。

- (1) 1968.12.1-1979.8.31 最初のタイプ。
- (2) 1979.9.10-1990.9.30 D欄元号入り。C欄配列が変更になる。
- (3) 1990.10.1-(現在) 波部抹消部が2本波に、証示部が丸型に変更

今回の展示では(1)を中心に使用例と初期の使用済を展示しました。(2)(3)については珍しいものを抜粋して展示いたしました。



郵便番号導入にあたり、郵政省が製作した当時のポスターより2点展示いたします。

「郵便番号は住所の一部」 意匠：ハガキとナンバー君

「お手持ちのわくなし封筒やはがきにも郵便番号をお書き下さい」

また、切手コレクション展示パネルとは別のケースに入れて、以下を展示いたします。

(1) ナンバー君木製ハンコ

(2) 導入に先立ち、1968年2月に郵政大臣小林武治が差し出した、郵便番号記載協力依頼書（周知宣伝物）

(3) 記念印

東京大学五月祭切手展記念 1968/5/25

郵便番号早わかり展記念 昭和43年8月

郵便番号自動読取区分機始動記念 昭和44年6月18日

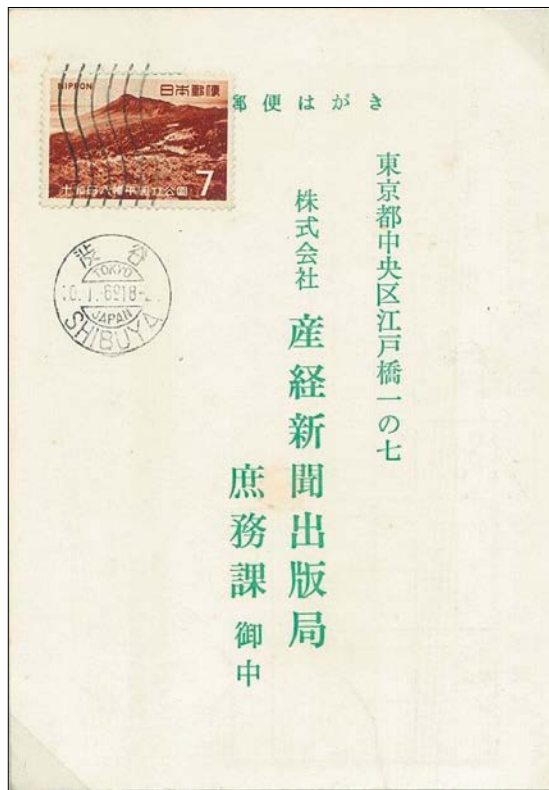
自動取り揃え押印機の開発とその使用 (8)

水谷 行秀

経済の成長と生活の向上が郵便需要を拡大させ、これを的確・迅速にこなす体制が求められた。郵政省（当時）は郵便自動化機械開発室を開設。東芝・日本電気・日立に機械の開発を依頼。大宮局内に機械化実験室を設置し機能実験を行なった。

切手を感知して押印作業までこなす取り揃え押印機は機能実験の後1968年12月1日より外国宛て郵便物にも対応可能な和文・欧文併記の印を取り付け使用開始。これが「和欧文機械印」である。以後少数の例外を除き、（自動）取り揃え押印機専用タイプの消印となる。

この作品は自動取り揃え押印機開発の過程と、和欧文機械印にて地方史の一端や世論の流れ、法律の成立そして郵政の政策などの表れを示したものである。

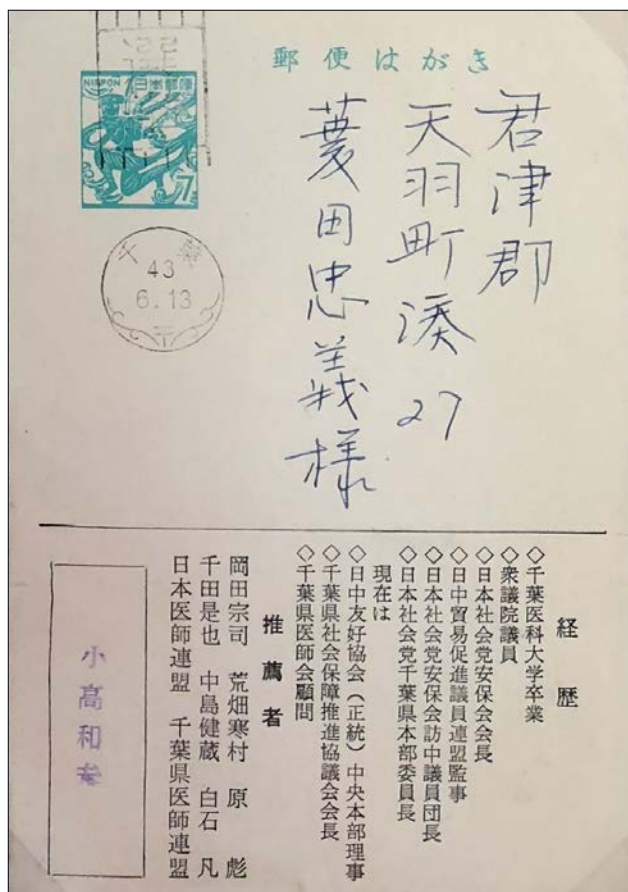


日立型機械印 (2)

鈴木 盛雄

郵政省は、昭和40年代に入ると郵便量の増加に伴い、コスト削減・自動化・省力化のために、自動捺印機の競合製作を、日本電気（NEC）、東芝、日立製作所などの大手製造業に依頼しました。

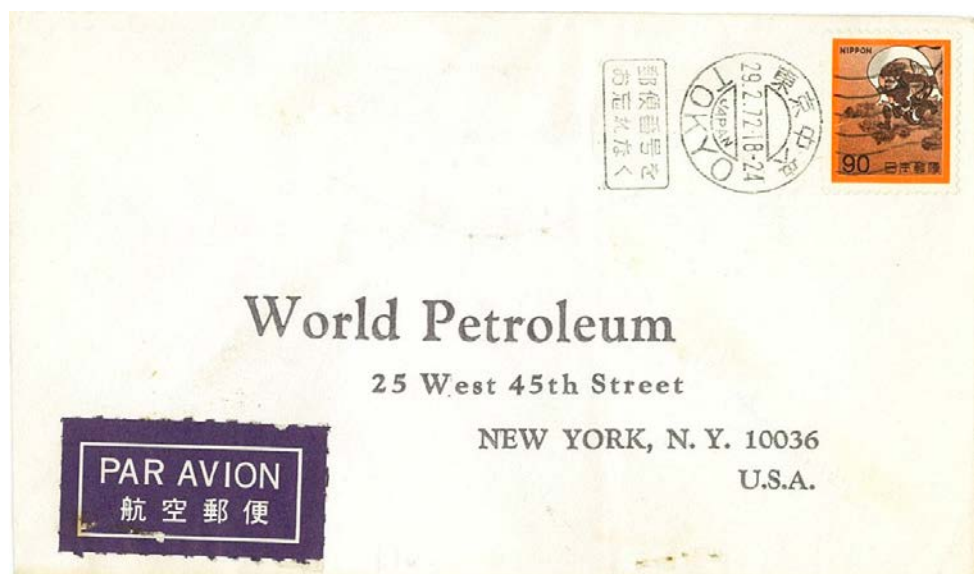
このうち日立製作所製の自動捺印機は、その特異な機構と独特な活字で人気が高いので今回作品にまとめてみました。使用局や使用期間もまとめてみましたので、作品をご覧ください、更新できる場合はお知らせいただければ幸いです。



第I期 和欧文機械印の使用期間中における外国宛郵便 (1968年12月～1979年8月) (5) 横山 裕三

和欧文機械印は、郵便ポストに投函された外国宛の郵便物を押印処理できるように英文併記になった新しい機械印です。また、刻印の中に国名「JAPAN」の文字が入った第I期印は、1968年7月から導入された「郵便番号」の記載をPRするため、3種類の標語と合わせて使用されました。

本展示は、第I期印が使用されていた1968年12月1日～1979年8月31日の期間中における外国宛郵便について、郵便種類毎の料金の変遷を、第I期印で押印された実例を用いて示すものです。対象となる外国宛郵便料金は、和欧文機械印が登場した1968年12月における料金（1966年7月1日改正）から、途中の数回の改正を経て、1976年1月25日の改正料金までが該当します。



郵便番号宣伝切手 (5)

吉田 敬

記念切手の発行枚数がせいぜい1800万枚程度だった当時、2億枚から4億枚も製造された同切手には、製造上からも使用上からも通常切手同様の多岐に渡るバラエティが見られるはずです。

出品者は、30年以上前の高校生の頃にこの切手を収集していましたが、作品にまとめるのはこれが初めてのことです。今回コレクションを作っている最中も明らかなシェードバラエティを認識致しましたし、本作品はさらに改良することが可能だと考えております。またいつか展示機会があれば幸いです。



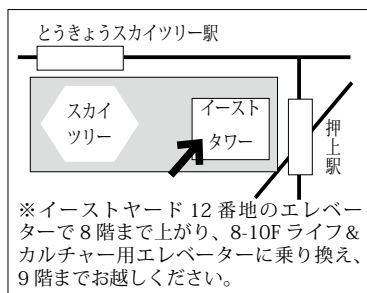
郵博 特別切手コレクション展

1902年(明治35年)に開館した「郵便博物館」に
その起源を遡る「郵政博物館」で開催される特別展です

2018年度に開催予定の特別切手コレクション展一覧

開催期間	特別展名
4/20-22	郵便制度史展 2018 ポスタル・ヒストリーのメイン・ストリームを織りなすコレクションの数々
6/23-24	南方占領地のフィラテリー展 第二次世界大戦中に日本が南方占領地で発行した切手の大河コレクション
6/30-7/1	郵便番号導入50周年展 郵便番号が1968年に導入され半世紀経過したことを記念して開催いたします。
10/6-8	< 動植物国宝切手の神髄 > 展 日本切手随一の人気シリーズである動植物国宝切手の魅力溢れる名菓の数々
10/13-14	珠玉の菊切手コレクション展 わが国における「菊」の最高峰コレクションが揃い踏み
11/3-4	第6回ヨーロッパ切手展 第一次世界大戦終結100年を記念したコレクションが勢揃い
2019年 2/2-3	第2回いずみ展 わが国郵趣グループのトップ・ランナーの実力がここに明かされる

特別切手コレクション展の開催時間は原則として午前10時～午後5時半ですが、初日だけ12時開始になる事が多いので、ホームページでご確認の上、お越しく下さい。



郵政博物館への行き方

所在地 東京スカイツリータウン・ソラマチ9階
※イーストヤード12番地のエレベーターで8階まで上がり、8-10Fライフ&カルチャー用エレベーターに乗り換え、9階までお越しく下さい。

最寄駅 押上駅(東京メトロ半蔵門線、都営浅草線、東武スカイツリーライン、京成押上線)、とうきょうスカイツリー駅(東武スカイツリーライン)両駅から直結。

共催 郵政博物館、特定非営利活動法人郵趣振興協会

<http://kitte.com>